



海辺・川辺調査レポート

名 前（ふりがな）	浜元 大輝
グループ名	
学校名	氷見市立海峰小学校
学 年	5 年
年 齢	1 0 歳
お手伝いしていただいた方の名前	浜元昌宏（祖父） 浜元与志宏（父）

レポートした場所	氷見市小杉 小杉漁港
レポートの題名	うらやましい昔の小杉の海辺
内 容	<p>左側の3枚の写真は、お父さんの子供のころの小杉の海辺の様子です。右の4枚の写真は今の小杉の海辺（漁港）です。お父さんの子供のころは今から40年前になります。同じ場所の写真をとるのに、とても苦労しました。昔の写真にある砂浜や海水浴ができる海がなかったからです。手がかりになったのは、今も残っている建物や電柱、そして山の形でした。</p> <p>おじいさんに聞くと、昔の漁港は北のほうにしかなく、小さい船しか利用できなかったそうです。今は、定置あみが大きくなってきかい船が多くなったから、船置き場やあみを置く所になったそうです。また、防波堤がなかったから、台風のときは、国道まで波がきていたそうです。漁港になったおかげで今では波が国道へくることはありません。</p> <p>ぼくは、昔の写真を見て海水浴ができてうらやましいなと思いました。お父さんの話では、砂浜で野球をして遊んだり、海にもぐり、サザエやウニ、カニなどもとったりしたということです。魚が泳ぐ姿や海辺の小さな生き物を当たり前のように見</p>

ていたそうです。「海が目の前にあるのにそこで泳げないちゃ、なさけない。」とよく言います。ぼくはそんな話を聞くたびに、昔できたことが今できなくてすごく残念で、うらやましくなります。わざわざ水族館へ行かなくても、すぐそこに自然の水族館があったのだと思います。

ぼくたちは、自然を大切にしよう、自然とふれあおうとポスターに描いたりしているけれど、そういうことは考えずに漁港を作ったのかなと思います。漁港が盛んになるために、災害を防ぐために必要な漁港だけれど、自然とふれあう場所は無くしてしまっただのだと思います。

これからは、子供たちやいろんな人の意見を聞いて開発したり、工事をしたりしてほしいと思います。そして、だれでも気軽に自然とふれあえる海辺になればいいと思います。

40年前

現在



1963年



2003年8月

40年前



1963年



1965年8月

現在



2003年8月